

みやぎ民話の会の歩み

◆ 1975年 みやぎ民話の会を結成

代表 小野和子(当時…日本児童文学者協会会員・日本民話の会 会員)

◆ 1977年 会報発行(後に民話誌「民話」と改名…現在までに30号を数える)

◆ 1982年 日本児童文学者協会編「ふるさとの民話」シリーズのうちの『宮城県の民話』(偕成社・1982年刊)を担当
(現地編集責任者…小野和子)

◆ 1985年4月～1988年3月の3カ年、宮城県教育委員会の委託を受け、小野和子を責任者として、宮城県内の民話伝承調査に従事。その結果を、宮城県文化財調査報告書第130集『宮城県の民話』(B5版490ページ)としてまとめる(1988年3月発行)。

◆ 1985年から、会員が採訪してきた記録を「みやぎ民話の会資料集」として、その都度記録する。(現在までNo. 516冊を作成する)

◆ 1988年 日本民話の会発行『民話の手帳』誌(No. 38号 1988年刊)『特集 宮城県の民話』の編集を担当
(編集責任者 小野和子)

◆ 1991年～ 採訪によって聞き取った民話の活字化を図り、多くの人々に、この先祖の遺産を手渡したいという願いから、「みやぎ民話の会叢書」という民話集を発刊。現在まで、14集(16冊)を数える。

◆ 1994年 日本民話の会 共催「日本民話の学校」(於 栗駒憩いの家)を開催

◆ 1996年 みやぎ民話の会主催「第1回みやぎ民話の学校」を開催。以来、隔年で開催し、広く一般に呼びかけ、伝承の語り手を囲んで、その語りや暮らしの話などを聴く場を設定した。

◆ 2003年1月～ みやぎ民話の会の代表を山田裕子、顧問を小野和子とする。

◆ 2011. 3. 11の震災に際し、仮設住宅などで民話を語り、被災者の心になぐさめをもたらすことを願って奉仕する。

◆ 2011年8月21～22日 「第7回みやぎ民話の学校」於南三陸町ホテル観洋(当時まだ避難所だった)で開催。宮城県内で被災された民話の語り手6名を招いて、その体験を語っていた。全国から200余名の参加者が集まる。(「みやぎ民話の会叢書」13集参照)

◆ 2011～2012年 第1回「みやぎ民話の学校」から参加くださったっている3名の伝承の語り手の語りを映像で残すべく、映画監督濱口竜介、酒井耕の両氏(せんだいメディアテークの「3がつ11にちをわすれないために センター」に所属)による口承記録映画「うたうひと」の制作に参加。2011年秋から撮影を始め、2012年12月20日に、せんだいメディアテークシアターで初の試写会を開催する。

◆ 2012年7月～ せんだいメディアテークとの協働で「民話 声の図書室」を開設すべく、これまでに集めた民話の収録テープ(約1000本)の整理や、宮城県を中心とする民話の語り手の映像記録・DVDシリーズの発行を行う。

◆ 2013年～ せんだいメディアテークとの協同で「民話 ゆうわ座」を開催。誰もが知っている日本の民話を題材に、「みやぎ民話の会」が約45年にわたって記録してきた、民話語りの映像や音声を見たり聞いたする対話の場として、毎年1回、せんだいメディアテークを会場に行ってきた。(2018年12月までに計6回開催)

◆ 2014年8月29～30日 「第8回みやぎ民話の学校」(於丸森町「あぶくま荘」)開催

◆ 2019年1月～ みやぎ民話の会代表 島津信子、顧問 小野和子とする。

◆ 2019年現在、メディアテークとの協同で、「民話 声の図書室」DVDシリーズを計28タイトル、CDシリーズを計6タイトル発行(制作…みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム・せんだいメディアテーク)。ラウンジ展示「2011. 3. 11 大津波に襲われた沿岸集落で、かつて聞いた《いいつたえ、むかしはなし》」を計7回開催。2019年12月下旬、「民話ゆうわ座」の第7回を開催予定。